

下野市立南河内中学校

1 学校課題

主体的に表現し、伝え合う生徒の育成

～伝える力を高める実践的、対話的な活動を目指して～

2 研究計画

(1) 主題設定の理由

本校では、2022（令和4）年度の義務教育学校設立に向け、小学校と一緒にコミュニケーション力の育成に向けての推進活動を行い、一昨年度から学校課題を「主体的に表現し、伝え合う生徒の育成」と設定した。本校の学校経営方針にもある、人と「つながる」ためには、このコミュニケーション力は不可欠であり、言葉の力は思考力や感受性を支え、全ての教育活動の基盤となるものと考え、授業や行事などの様々な場面で取り組んできた。

特に昨年度は、教科ブロックと特別活動ブロックに分かれて職員研修を行い、教科指導の中だけでなく学校教育の様々な場面に「伝える場面」や「対話的な活動」を意識して取り組んできた。コミュニケーションに関するアンケートでは、肯定的な回答の割合が増えるなどの効果が見られた。しかし、話す内容が整理されず、何を伝えたいのかが分からないなど、自分の意を「伝える力」については、課題がある。また、生徒自らが話したい、伝えたいと思うような伝える必要感のある活動や、効果的な関わりの場の設定に関しても、さらに研究が必要である。そこで、昨年度の成果と反省を生かし、教科と特別活動の2つの方向から研究を進めていきたいと考えた。

(2) 研究の仮説

自分の考えを発表・交流する機会を意図的に設けるなど、目的を明確にした対話活動の充実を図ることで、伝える力を高められるのではないかと考えた。

3 研究内容

本年度は自分の考えや思いを適切に表現し、様々な場面や集団の中で人間関係やチームワークを形成し、相手の反応や気持ちを受け止めながら、合意形成・課題解決する生徒の育成に取り組んでいくこととする。

(1) 対話に必要な表現力を身に付けさせる工夫

①言葉の選び方、話し方に関する知識の定着を図るための手立て

目的や場面に応じた言葉遣いや自分の経験・知識を整理して考えをまとめ、語句や文を効果的に使い、説得力のある話し方のスキルを高める指導を行った。

②目的を明確にした対話活動の充実

目指す生徒像を明確にし、互いの知見や考えを伝え合ったり議論したりした。また、多様な意見を共有しながら合意形成を図る協働的な活動を通して、自身の考えを広げたり深めたりできるような場面を設定するなど、表現力を高めるための効果的な言語活動を工夫した。さらに、職員研修（S&U事業による研修や下野市教育委員会指導主事の訪問による研修）や授業研究会による教師の指導力の向上を図った。

③9年間を見通した学びの系統的な指導の研修

義務教育学校になるにあたり、小中乗り入れ授業や小中一貫の日研修の中で、「コミュニケーション力の育成」等について情報交換を充実させ、系統的な取組について研究を行った。また、小学生と中学生が交流する場を設け、目的に応じたコミュニケーション活動を行った。

(2) 研究授業を通じた主題への取組

月日	学年	単元名	課題追究のための手立て等
7 / 7	2年	英語「接続詞 if を用いた英文」	知識の定着の場と活用・交流の場の設定
10 / 6	3年	国語「和歌の世界」	伝える力を高めるための言語活動の工夫
10 / 27	1年	道徳「むかで競争」	活動形態の工夫による対話型の授業実践

英語の研究授業では、接続詞 if の使い方を学習したあと、その知識を活用し、身近にあるおすすめのと理由を英作文し、発表（交流）した。生徒のつぶやきをひろって称賛したり、モデル文を示したりと、教師の支援があり、発表することに自信がもてる雰囲気をつくることができた。

国語の研究授業では、万葉集の和歌から1首選び、和歌の表現から自分のものの見方を広げる授業を行った。タブレット端末を活用した発表を行い、他人の考えを視覚でも捉えられるように工夫した。比較することで、自分の考えをより広げたり深めたりする場の設定を図ることができた。

道徳の研究授業では、発問ごとにペアや小グループで意見交換をするなど、活動形態の工夫をしながら、内容項目に迫る授業を行った。話しやすい雰囲気や他者の意見を受け入れる雰囲気をつくることで、発表することへの抵抗感をなくすことができた。

(3) 特別活動を通じた主題への取組

生徒会活動や実行委員会等を中心とした学校行事、学級活動、部活動、小中交流事業等を通して、目的に応じた話し合い活動を意図的に設定した。また、行事の振り返りを給食時に放送で発表するなど、表現力の向上や発表することの自信につながる場を設定した。

4 本年度の成果と課題

コロナ禍のため、学習形態や特別活動において、いろいろ制限が出てしまった。しかし、そんな状況の中でも、できる工夫を模索し実践してきた。今後も、実践してきた内容を校内で共有していきたい。

(1) 成果

- ①学習形態や協働的な学び、雰囲気づくりなど、教師の生徒を学びに参加させる工夫・支援により、表現することに自信がもてるようになってきた。多様な考え方があることに気付き、自分の考えと比較しながら共通点・相違点を確認するなど、対話的な学びが実現できるようになってきた。
- ②学校課題の達成に向け、教師側の研修や研究会から得られた効果的な取組を実践しようとする意識が高まった。

(2) 課題

- ①書いたことをただ音読するだけや、単語のみの発言にとどまってしまう生徒もいる。キーワード的なメモから、頭の中で伝えたい内容を整理・構成し、表現できる手立てを考えていきたい。
- ②適切な言語活動の設定ができているか、より具体的な評価規準が設定されているかなど、常に意識しながら授業を構想していきたい。

